

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第9号 2005年11月

もくじ

巻頭言・充実が目下の願い	高橋 博良
環境教育プロジェクト「我が家の環境大臣」(環境省)への協力	泉 浩二
プロジェクトへの取り組み	中西 由美子、高橋 博良、藤井 健史、松島 正
エコアクション21	藤井 健史、藤野 良洋
MECCパンフレット	中西 由美子
近況報告	門司 和夫
環境適応力と地域環境力	宇野 哲夫
EC 関東甲越静岡ブロック協議会	宇野 哲夫

巻頭言・充実が目下の願い

理事長 高橋 博良

菊花香る季節になりました。活動の時です。メンバーそれぞれが有効な活動を展開しています。神田川のブルーギル退治、武蔵野市のグリーンパートナー協力、ECU(全国連)支援、EA21地域事務局「東京中央」の立上げ(NPO杉並環境カウンセラー協議会、城北環境カウンセラー協議会との協働)(iGES地球環境戦略研究機関)、EA21認証コンサルタント契約、iGES提唱の「自治体イニシアティブプログラム」(八王子市)支援、等等。

八王子市内のEA21認証希望事業者支援活動は平成18年5月過ぎまで続きます。

11月25日と12月2日は武蔵野市の環境講座です。グリーンパートナー制度の推進、EA21認証取得へのサポートなどが仕事の内容です。

EA21認証を希望する事業者は予想以上に多いのかも・・・対応策の構築を急がねばなりません。会員増強などのご支援をお願いいたします。

今号について

今回は今年度活動の中間報告です。今年度、環境省は「わが家の環境大臣」プロジェクトに力を入れ、推進役として環境カウンセラーに期待しております。当然MECCは団体登録しておりますが、現在どのような状況になっているかをお知らせします。責任者の泉からは全体的に報告し、各担当者から独自の報告があります。プロジェクトとして環境カウンセラーなら周知の内容は割愛させて頂きました。今回はこれが主体ですが、EA21事業やパンフレット作成のご苦勞についても編集しました。(編集担当)



環境教育プロジェクト「我が家の環境大臣」(環境省)への協力

MECCの平成17年度活動計画のひとつとしてスタートした環境省「我が家の環境大臣」プロジェクトへの協力についての現状について報告いたします。

1. 目的: このプロジェクトは、環境省「我が家の環境大臣」プロジェクトへの協力を通じて、エコライフの実践、家庭での環境教育の推進を図ることを目的としております。

2. 内容: 日々の暮らしにおける環境保全の取り組みを行う家庭を「エコファミリー」、その代表者を「我が家の環境大臣」として登録し、ゲーム感覚で取り組める参加型コンテンツを利用してエコライフの実践をおこなうものです。

3. 取組状況: MECCでは東は武蔵野市から西は八王子市在住の会員8世帯(泉、糸井、稲田、高橋、藤井、松島、坂井、中西)25名で「メック・エコスターズ」名で団体登録を、また合わせて家庭ごとにウェブ登録を進めています。教材として配布された「えこ帳」で各家庭で取り組みのヒントを得てそれぞれ取り組むと共に、団体共通の取組は、まず「えこ帳」のエネルギーチェックを進めることとしています。

4. 今後の取組: メック・エコスターズとしての取組はこれからですが、これまでの市民・学校向けの環境教育支援、事業者向けの環境経営支援といったメックの団体としての取組とともに、有志会員による自らの家庭での「エコライフ」への取組を、できることから率先して実践していきます。

各家庭での、エネルギー、廃棄物、排水等の現状を把握し、可能な環境配慮を考え、実行しチェックする「家庭版EMS」といった取組みから、さらに、これらの取組事例を地域の催しで発表することにより、普及・啓発につなげていけたらとも考えています。EA21のような事業所での取組みと家庭での取組を両輪として、点から地域での取組へ広がりを図り、持続可能社会へ向けての歩みの一歩となればと思います。

5. 「我が家の環境大臣」全国事務局は日本環境協会が運営しております。MECCの登録情報を含め、詳しくは下記のウェブサイトを参照してください。

<http://www.eco-family.jp/>

(東村山市 泉 浩二)

プロジェクトへの取組み

○我が家の環境大臣の取り組みについて

我が家では私が環境大臣、夫が大臣官房でスタート。大臣は、ついつい電気を消し忘れてしまうのであるが、大臣官房がすかさず厳しく指摘する。今年からわが省では、家庭菜園のお陰で生ゴミが肥料になり、可燃ゴミの減量に成功、次なる課題は不燃ゴミの減量化か。(日野市 中西 由美子)

○わが家も環境経営!が理想?

夏の冷房、冬の暖房、非高断熱構造のわが家では特に暖房には…ガスが良いか電気が安いのか? 高いか? 石油では? 値段だけでなくCO₂排出とか水蒸気発生問題まで考えろということなのかもね?(武蔵野市 高橋博良)

○我が家のエコファミリー

参加したが、これがEA21に比べて間延びしてどうもすっきりしない。電気使用量、ガス使用量、水道使用量のデータを取り記録するのだが、データは1ヵ月毎(水道は2ヶ月毎)であり、検針日が必ずしも

毎月同じ日ではないので、使用量が季節変動以外に、測定期間の変動による影響も受ける。日ごろから少々は省エネ、省資源に配慮した生活を行い、買い物にはマイバック等を実行しているがその成果がどこにどのように出てくるか疑問である。

しかしながら、これらのデータの記録を続けてゆくと季節変動や気候の年間変動などの様子も見えてくるかもしれない。数年はデータを蓄積し、一人当たりの使用量の他のファミリーとの比較などを行うと面白い結果が出るかもしれない。気長にデータの蓄積を行う段階ではないかと思う。

(国分寺市 藤井 健史)

○私が居住する狛江市では、本年10月1日から可燃ごみと不燃ごみが有料化されました。従来は粗大ごみだけが有料対象でした。ごみ減量化は、直接的には家計負担を軽減しますが、最終処分場の延命化から地球環境の保全に貢献することを意識して取り組みます。(狛江市 松島 正)

エコアクション21

今年度の活動

今年のMECC関連の活動としてはEA21に関わる活動に尽きる。自分自身ではEA21審査人資格取得に関わる活動、EA21導入希望事業者への指導、登録審査を行ったほかEA21の啓蒙普及活動に従事した。MECCではその活動計画に基づき、EA21関連の情報交換と具体的実施項目の打合せを行い、そのうちのEA21指導技術の向上のための研修会を2回実施した。10月からはEA21地域事務局東京中央が実施を委嘱された「八王子市自治体イニシアティブプログラム」において参加事業者の指導を行うことになっている。(藤井 健史)

小企業のEA21取得について

いま中小企業を1社担当しているが、そこでの体験からEA21への疑問を述べたい。その会社は社員十数人のいわゆる零細企業であって、“EA21のガイ



MECCパンフレットについて

最近、仕事でも一般の人向けの冊子やパンフレットづくりに関わる機会が多くなってきた。それだけ、世には情報があふれており、情報を必要とする人も多くなってきている。私は、まず環境カウンセラーという存在を一般の人に知ってもらい、そして、地域で活動している環境カウンセラーの団体があり、気軽に相談できるのだということを知ってもらいたいと思っている。現在作成中のパンフレットが、相談者とお話をする際に、MECCの活動の内容や組織について理解を深めるツールとして活用していただけたら大変嬉しい。また、より使いやすいうようにこれからも皆さんの意見を聞きながら更新していきたい。最近紙の媒体だけでなく、HPやネットで情報を収集する人も圧倒的に増えている。パンフレットが完成したら、つぎはHPでも活動状況について、わかりやすい写真や解説を掲載し、皆さんに見てもらえるようにしてはどうかと考えている。(中西 由美子)

ドラインを理解し、活動に移す”ということがすんなりと出来るような状況に無い。これはその会社の責任ばかりとは言えない。私は長年に亘り幾つかの中小企業の経営にあたって来たが、零細企業の実態は、そこに身を投じた者にしか理解できない問題が山積している。EA21本来の基本理念即ち“中小零細企業環境経営推進、利益創出”という理念はどこへ消えてしまったのだろうか。零細企業では到底取組めない審査マニュアルを発行し、500人以上の大企業まで同一基準で処理しようとしたり、現場の第一線で指導に当たるコンサルタントの意見を聞かずに費用設定したりするのは何故か。IGESは審査基準を明確に公表し、審査・認定費用のみを設定すればそれでいいのではないか。コンサルタントの分野まで立ち入る必要はないと思う。これは環境カウンセラーが個々の力量で企業と協議して決めればいいのかと思う。(藤野 良洋)



近況報告

2月の京都議定書の発効、地球温暖化対策強化の追い風もあり、このところ、省エネルギー支援を中心に活動しており、川崎駅北側の独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)に足繁く通う昨今です。

(門司 和夫)

環境適応力と地域環境力

今年のNHKの大河ドラマ「義経」の視聴率は例年に比べてかなり高いとのこと、確かに面白い。その面白さは時代が大きく変化するときの人間の生き方にあるようです。従って源平時代だけでなく、室町後期から安土桃山を経て江戸へ向かう時代、そして明治維新。共通して言えるのは時代の変化が理解できず、古い権威にしがみ付いたり、やたらと右往左往するのが必ずいることです。とは言え時代の変化を的確に見極める人間は殆どいません。但し“時代は変化しているようだ”と気が付いて必死になって見極めようとする人間は少なくはないようです。

ところで現代はどうでしょうか。確かに変化しているらしいことは分かります。しかし今まではあくまでも人間社会の変化でしたが、今は人間の生産力、経済力が大きすぎて気象まで変化させ、それが人間社会に影響し始めています。例えば都市化が進んで都市の温度が上昇し集中豪雨が発生するようになり

ました。その結果都市河川が氾濫。対策は巨大な地下調節池。それを作ろうとすると当然地下水分断が起きます。同じ地域での大深度外環道路建設計画に地下水分断を根拠として反対していた地域住民は今後はどうするのでしょうか。時代の変化に対する生き方を考えざるを得ません。

地球環境そのものが変化する時代に人間はどのような判断をすればいいのでしょうか。温暖化を阻止すべく石油依存社会からエネルギー多様化社会に移行しようとしています。それは社会も自然も確実に変化させます。その変化にどう適応するか。最近ときどき聞かれる「地域環境力」とは人間にとって好ましい環境に地域ぐるみで変化させようとする力ですが、それはあくまでも地上の人間社会の話、それが今や気象までも考えなければならなくなったのです。こんな考え方をするなんて、人間の歴史上初めてではないでしょうか。21世紀が環境の時代と言うのはこんなことなのでしょうか。

(宇野 哲夫)

EC 関東甲越静ブロック協議会

去る10月28日、EC 関東甲越静ブロック協議会が関東地方環境事務所(さいたま市)で開かれました(出席者:全21名)。内容はECU環境教育事業に関するものが主体で①平成17年度以降の方向付け、②平成17年度事業、③環境教育事業の課題でしたが、姿勢としては“ECUとしてはこれこれしかじかの方針で臨んでいるので、環境カウンセラー協議会の方々にはひとつ宜しくお願いします”と富川ECU副理事長からの報告でした。その内容については出席者から検討不備をかなり厳しく指摘されたので追って改善版が出てくると思います。

一方、環境省に地方環境事務所が設置された意味の大きさについて当事務所の環境対策課長から説明がありました。環境省設置法改正に伴う「地方支分局」の設置によってこの事務所が出来た、要するに格が上がったということです。昨年の暮(12/1)に行

われたEC全国検討集会の際、“調査官事務所は何かの課の広報室の下に付いている”と聞いて驚いたことがあります。それが大きく変わりました。今度の所長は本省審議官クラスとされ、事務所は他省庁の地方の同じような組織と同格ということですから、環境問題でやりあう際はだいぶ動き易くなるのではないかと思います。また長年の願望であった手足となって動ける部署を持つことができました。他省庁が縮小や分離が迫られている中、環境省が組織拡大部分署を持つことが出来たのは京都議定書発効等の影響による環境政策重視の表れとはいえ大変なことなんでしょう。当事務所の職員は多忙を極め日夜飛び回っており、訪問したときは人影は見えず、環境対策課長もたまたまその時間に居合わせたので相手をしてくれたとのこと。環境カウンセラーも地方環境事務所と連携をとりながら活動できる体制になり、ようやく世の中が開かれてきたという印象の1日でした。

(宇野 哲夫)

発行者 : NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会 (MECC) 事務局

180-0023 武蔵野市境南町 1-30-1 Tel & FAX : 0422-31-7200

電子メール : QWK11724@nifty.ne.jp

ホームページ : <http://www.mecc.or.jp/>